

おくすり通信

No.5 かゆみ止めについて

こんにちは、薬剤科です。夏真っ盛りですね。今年は暑すぎて蚊もバテているようではありますが、市販されているかゆみ止めについてまとめていきます。

《かゆみのメカニズム》

かゆみの原因には様々なものがありますが、虫刺されや汗かぶれによるかゆみはアレルギー反応により生じます。虫が持っている物質や汗に含まれる成分がアレルギーとなり、免疫細胞からヒスタミンが放出され、ヒスタミンがかゆみを引き起こします。また、汗疹（あせも）は汗かぶれとは違ったメカニズムで生じます。急激に汗の分泌が増えたり、汗の出口が汚れて塞がるなどして汗が排出されずに溜まってしまい、それにより炎症が引き起こされて汗疹ができます。

《一般用医薬品のかゆみ止め》

よく知られている市販のかゆみ止めに「ムヒ」があります。ムヒにはいくつか種類があり、含まれる成分の違いによりそれぞれ特徴があります。症状に合った薬を選ぶためにも、ぜひ薬の成分に注目してみてください。

商品名	ムヒS	ムヒアルファSH	ムヒアルファEX	アセムヒEX
成分名（作用）		増量→かゆみにより速く		
ジフェンヒドラミン（抗ヒスタミン作用→かゆみを抑える）	1.0g	2.0g	1.0g	1.0g
グリチルレチン酸（生薬成分：炎症を鎮める）	0.3g	0.2g	-	-
トメントール（清涼感→かゆみを鎮める）	5.0g	3.5g	3.5g	3.5g
dl-カンフル（清涼感→かゆみを鎮める）	1.0g	1.0g	1.0g	-
イソプロピルメチルフェノール（殺菌作用）	0.1g	0.1g	0.1g	-
クロタミトン（かゆみを鎮める）		ステロイド追加	5.0g	5.0g
デキサメタゾン酢酸エステル（ステロイド：炎症を鎮める）		25mg	-	-
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル（ステロイド：炎症を鎮める）	-	-	0.15g	0.15g
タンニン酸（角層の隙間を引き締める→汗の侵入を防ぐ）			-	0.06g

（商品 100g 当たりの成分量）

より強いステロイドへ
→毛虫やクラグにも

汗かぶれに効果的
汗疹にも有効

《ステロイドの注意点》

今回取り上げた薬の中にはステロイドを含むものがあります。ステロイドは副作用の観点から顔などの皮膚の薄い部分への使用や長期連用はお勧めできません。また、膿んでいる部位に使用すると悪化する恐れがありますので、使用しないでください。使用期間の目安として、顔に使用する際には2週間以内、その他の部位に使用する際には4週間以内の使用にとどめ、必要なときのみ使用するようしてください。

そのほか、気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。